

地域課題解決に先進技術を単独先行導入するのではなく、自治体職員や住民が先進的な取り組みを自分事として捉えることができ、積極的に必要な専門知識・高度な未来技術を習得・実行する「ヒトのアップデートにより推進するスマートシティ化」(ヒトのスマート化)をまちづくり会社を主軸として取り組む。

## 位置図



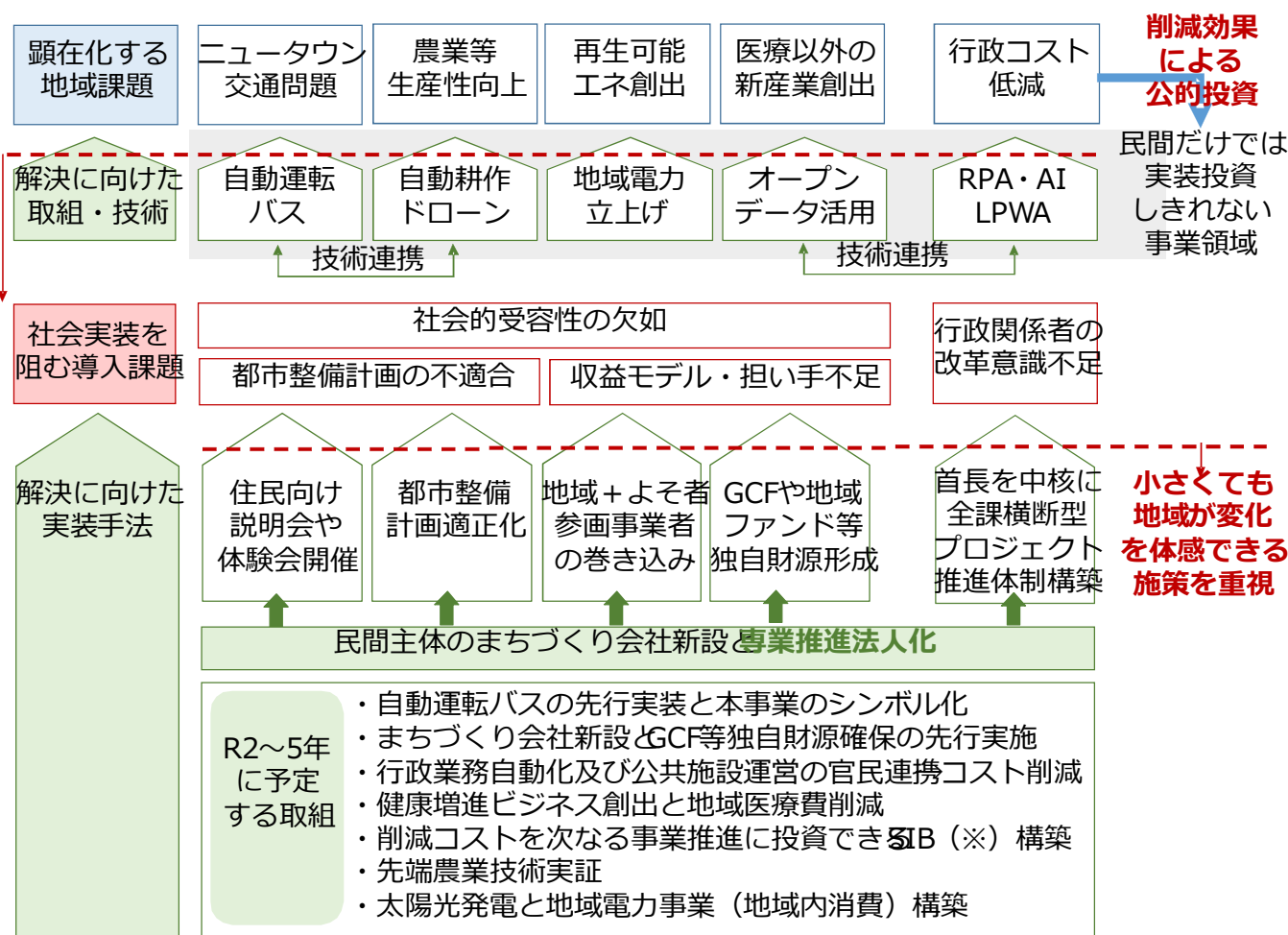
## ■対象区域の概要

- 埼玉県毛呂山町
- 34.07km<sup>2</sup>
- 3.3万人(令和2年3月1日現在)

## ■対象区域のビジョン

「ヒトのスマート化」を通じた未来技術の活用により地域課題解決、未来技術導入を契機とした真の地域の高度化を実現し持続可能なまちづくりを目指す。

## ■本事業全体の概要



※SIB(Social Impact Bond)の略

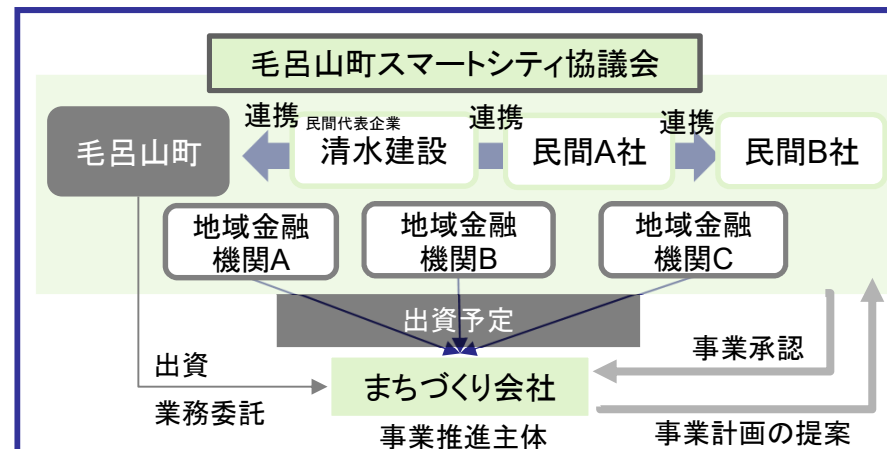
## ■スマートシティの目標(KPIの設定)

**【毛呂山町新規進出企業数】**: 10社 ※2021年⇒2030年  
町経済の生産性という課題に対して、先端産業や医療福祉産業のベンチャー企業等の集積を目指す。

**【目白台地区自家用車依存率】**: 76%→60% ※2030年  
鉄道駅へのアクセスが困難な目白台地区の交通利便性という課題に対して、自動運転技術導入により自家用車依存率の低減を目指す。

**【町財政義務的経費比率】**: 48.5%未満 ※2024年  
町財政の弾力性という課題に対して、「人のスマート化」により義務的経費の抑制を目指す。 ※毛呂山町中期財政計画(H31年3月)による

## ■運営体制



## ■導入技術

### ■自動運転技術

サービスロボットの人工知能による遠隔自動制御サービスを提供する民間A社を筆頭に自動運転バス周辺システム(遠隔監視システム、交差点危険度計算システム、自動運転バスシステム安全指標などを)を研究開発し、そのフィードバックを受けてさらに自動運転バス制御システムを開発。また、自動運転バス制御システムの製造費を抑える設計も行った。

#### 【先進性】

自動運転バスの連続走行試験(約8時間を2日間)に耐える自動運転制御システムを開発した。

### ■RPA

行政コストの低減の実現に向けたRPAの活用の前段として行政事務へのRPA導入を目指し、自動化が可能な部分のワークフローの洗い出しのための既存業務の課題感のヒアリングを行っている。

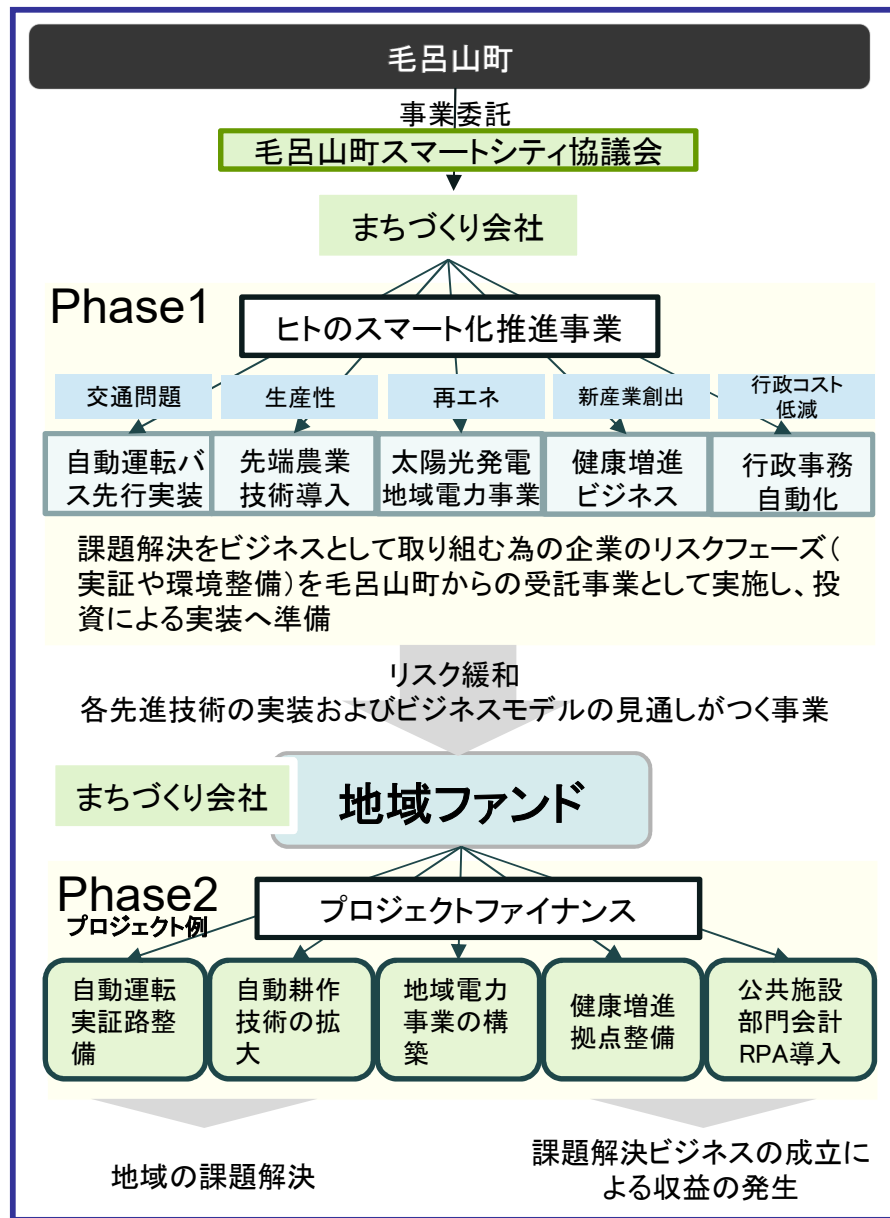
#### 【先進性】

既存のRPA製品パッケージを業務に当て込む形ではなく、職員発出で自動化したい業務フローを特定し、RPAを活用できるような環境づくりを行っている。

### ■LPWA

毛呂山町コミュニティバスを用いて携帯電話回線からLPWAによる通信に切り替えたバスロケーションシステムの実証事業を実施し、LPWAの活用可能性を検証。今後はLPWAを活用した町内インフラの監視データ収集等の展開を検討している。

## ■ ビジネスモデル



## ■ スケジュール

